



そろそろ暖かい時期になります

こんにちは 3月に入り、そろそろ春に向けて暖かくなってきますね。暖かくなると、地面には様々な植物の芽が出てきたりと、春になって素敵な景色になるよう準備しているように感じます。ぜひ、皆様も素敵な春を過ごせるよう、わんちゃん、ねこちゃんの予防などの準備をしてください。

☆☆学べるワンニャン語クイズ☆☆

問題：可愛い猫ちゃん、目を閉じてあくびをしますが、たまに目を開けたままあくびをする事もあります。さて、開けたままの場合は、どんな意味があるのでしょうか？

(答えは裏です。)

- ①.眠いよ～
- ②.なんか緊張するなあ～
- ③.暗いよ～



気を付けておきたいノミ・ダニのこと

暖かくなってくると、気を付けておきたいのは、ノミ・ダニです。
 まだ春じゃないし…と想着いても、地域によっては2月にダニに咬まれたというケースがありました。
 また、「室内飼いだから、うちは大丈夫」とか、「ノミやダニが付いているのを見たことがないので」と着って、予防を怠っている方が稀にいらっしゃいます。
 実は、ノミやダニは、人の服などに付いて家の中に入ってしまったり、姿を隠したりする事もあるため室内飼いや見たことがない事が理由で、**予防を怠るのは危険です**。
 そして、ノミやダニの怖いところは、人にも影響を与える事です。
 ノミは刺される事によって激しい痒みを人にも起こします。
 さらに、掻きむしった所が傷となり、化膿したり、ノミアレルギー性皮膚炎を起こしたり、ノミは腸内の寄生虫などの原因菌を媒介する事もあります。

～代表的なノミが原因の病気～

☆痒みの出やすい部位☆

おなか側…下腹部、内股辺り

背中側…腰、尻尾の付け根辺り

・ノミアレルギー性皮膚炎

ノミに刺された事で痒みが起こり、血が出るほど掻きむしってしまう事で起こってしまう病気です。掻きむしったところから、菌が入って化膿してしまいアレルギー性皮膚炎となります。この病気になると、皮膚炎、脱毛を起こしてしまいます。また、皮膚の一部が炎症で色素沈着を起こし皮膚が黒ずんで見えるようになります。

・瓜実条虫症

ノミの幼虫が条虫の卵を食べる事で起こる病気です。食べた条虫の卵がノミの体の中で成長していきます。グルーミングしたときに、体に付いていたノミと一緒に飲み込んでしまうと、体の消化管のなかで成長し、下痢や嘔吐等の症状を起こす事があります。感染している場合、糞の中に条虫がちぎれて米粒のような形で出てくることがあります。

・猫ひっかき病

病名から猫の病気だと思われるかもしれませんが、この病気は犬や人にもかかります。ノミの糞などに含まれるバルトネラという菌が原因で起こる病気です。猫にとっては害がないのですが、菌を持った猫などに引っかかれたり咬まれたりすると傷口やリンパが腫れてしまい発熱や痛みが伴います。

～代表的なダニが原因の病気～

• SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

ダニが原因の病気といったら、一番有名な病気になるかと思います。この病気は、マダニを媒介するウィルスが原因となる病気で、人がかかると発熱などを起こし重症化すると死に至る病気です。（実際 2013 年に死亡者が現れ、厚生労働省が注意を呼び掛けております）

• ライム病

一般的にダニの刺咬部を中心とする円心性の紅斑が数日～数週間後に現れることがあります。それに伴い筋肉痛、関節痛、悪寒などの症状がみられることがあります。この症状は人でも犬でも起こり、犬の場合は腫れた関節が原因で足が地面に着く事が出来なくなることがあります。

• 猫ヘモプラズマ症

マイコプラズマ・ヘモフェリスという病原体により起こる病気で、マダニやノミを介して猫に感染するといわれています。

この病気になった猫は、血液中の赤血球が破壊されて貧血となり、息が荒くなったり、発熱を起こすなどの症状が見られます。悪化すれば死に至ることがありますので注意が必要です。

• バベシア症

マダニから媒介されるバベシアという原虫が原因となる病気で、血液中の赤血球が壊されて重い貧血を引き起こします。

その他にも黄疸、血色素尿、発熱や呼吸が荒くなるなどの症状がみられ、症状がひどくなると命にかかわることもあります。



予防の方法

• お薬で予防

ノミとダニはお薬で予防することができます！

当院では皮膚に付けるスポットタイプと、飲むタイプのお薬を扱っております。予防は1カ月に1回です。

• お部屋をきれいに



じつは、お部屋の中にも見えないところにノミやダニは潜んでいます。

お部屋のお掃除もまめにしよう心がけましょう！

特にわんちゃん、ねこちゃんがいつもいるお気に入りの場所を重点的にお掃除して下さい。

学べるワンニャン語クイズ

答え：②なんかきんちょうするなあ～。眠い場合は、目を閉じてあくびをしますが、目を開けたままの場合は、緊張しており、目を開けることで周囲の様子を伺いつつ、緊張をほぐすためにあくびをします。